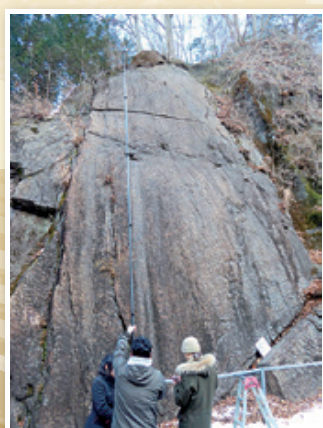


2018

平成30年度 独立行政法人

国立文化財機構 概要



目次



国立文化財機構：
発足から10年の節目となった平成29年度に、ロゴマークを作成しました。
コンセプト：「結び」
形は結びヒモとDNAのらせんの形を掛け合わせたデザインです。
「結びヒモ」は「人と文化のつながり（文化財）」を、「DNA」は「昔と今と未来のつながり（伝承）」をイメージしています。
文化の遺伝子を深く理解し、世界中の人々へ魅力的に伝承する国立文化財機構の姿勢（こころ）を表現しています。

(表紙写真)



東京国立博物館：
重要文化財 振袖 白縮緬地梅樹衝立鷹模様（ふりそで しろちりめんじばいじゅついたてたかもよう）江戸時代・18世紀



京都国立博物館：
国宝 釈迦金棺出現図（しゃかきんかんとしゅげんず）平安時代・11世紀



奈良国立博物館：
国宝 刺繍釈迦如来説法図（ししゅうしゃかによらいせっぽうず）奈良時代・8世紀



九州国立博物館：
重要文化財 色絵松竹梅文瓶子（いろえしょうちくばいもんへいし）江戸時代・17世紀末～18世紀初頭



東京文化財研究所：
恐竜の足跡化石の劣化状態計測



奈良文化財研究所：
平城宮東院地区現地説明会の様子



アジア太平洋無形文化遺産研究センター：
「無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業におけるバスアツ現地調査

ごあいさつ	1
I 組織	2
役員	
組織図	
職員数	
II 国立文化財機構のあらまし	3
III 国立文化財機構の事業	7
1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	7
(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承	
■収集	
■保存・修理	
(2) 展覧事業	
■展示・公開	
■博物館来館者数	
(3) 教育普及活動	
(4) 有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業教育普及活動等に関する調査研究	
(5) 国内外の博物館活動への寄与	
(6) 文化財の活用	
2 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	9
(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	
(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究	
(3) 文化遺産保護に関する国際協働	
(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用	
(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	
(6) 文化財防災ネットワーク推進事業	
IV 各施設の活動	
東京国立博物館	11
京都国立博物館	13
奈良国立博物館	15
九州国立博物館	17
東京文化財研究所	19
奈良文化財研究所	21
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	23
V 資料	25
運営委員会	
外部評価委員会	
予算	
外部資金受入	
VI 国立文化財機構からのお知らせ	27
寄附・寄贈	
会員制度	
ユニークベニュー	
多様な展覧機会の確保	

ごあいさつ

松村 恵司

独立行政法人国立文化財機構理事長
(奈良文化財研究所長)



国立文化財機構は、四つの国立博物館（東京、京都、奈良、九州）と二つの文化財研究所（東京、奈良）、そしてアジア太平洋無形文化遺産研究センター（堺市）を加えた七施設で構成されています。各施設はそれぞれ設立の経緯や目的に違いがありますが、文化財の保存と活用に一体となって取り組み、我が国の文化財保護行政の基盤を支える中核的な役割を担っています。

平成28年度（2016）にスタートした第4次中期計画期間も、5年計画期間の3年目を迎えました。平成30年度は、平成30年3月に閣議決定された「文化芸術推進基本計画」に則り、国内外の多くの人々が貴重な文化財に触れ、我が国の歴史や文化を深く学ぶことができる機会の増進に努めたいと思います。もとより、文化財の収集・保存・調査研究・管理・展示等が当機構の主たるミッションですが、これらの機能を一層充実させるとともに、従来の展示手法に加え、先端技術を活用した新たな展示手法の導入や、高精細レプリカの活用の検討、文化財のデジタルアーカイブ化の充実等を促進したいと考えています。

当機構が共催する「ICOM(国際博物館会議) 京都大会2019」や、世界が注目する2020年の「東京オリンピック・パラリンピック競技大会」が間近に迫ってきました。ICOM京都大会を成功させるとともに、こうした機会を活かして、日本の歴史や多様な伝統文化の魅力を国内外に積極的に発信し、本機構のさらなる活性化と、文化財保護意識の成熟につなげたいと思います。そのためには引き続き多言語化の推進や、快適で魅力ある博物館運営に心がけ、質の高いサービスの提供を目指します。

また、大規模災害の発生に備えて、文化財の防災・減災のための技術的検討や、被災文化財の全国的な救援体制の構築、救出文化財の安定化処置並びに修復方法に関する調査研究の推進が喫緊の課題となっています。この点に関しましても、文化庁をはじめとする関係機関との連携・協力を一層深め、「文化財防災ネットワーク推進事業」の強化に引き続き取り組んで参ります。

文化財は我が国の成り立ちを示す貴重な歴史的、文化的な遺産です。国立文化財機構は、この貴重な文化財の保存と活用を適切に図り、次世代に確実に継承するとともに、文化財のもつ歴史的、芸術的、学術的な価値と魅力を国内外に積極的に発信し、日本文化に対する理解の促進と深化に努めていく所存です。

何卒皆様からの暖かい御支援と御協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

I 組 織

役員（平成30年4月1日現在）

理事長（奈良文化財研究所長）

理 事

理 事（九州国立博物館長）

まつ 村 けい し
すぎ の つか
しま たに ひろ ゆき
島 谷 弘 幸

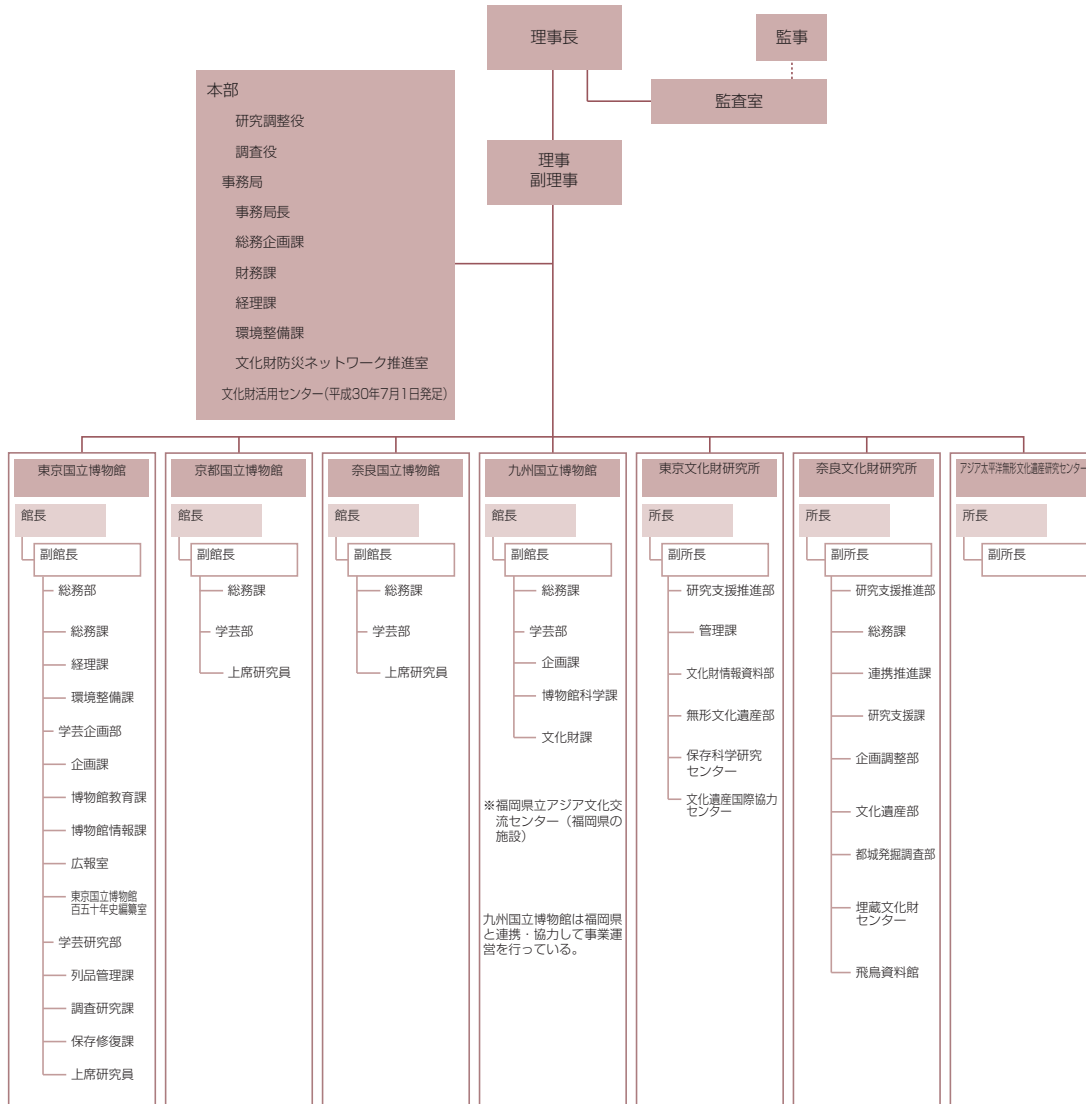
理 事

監 事

監 事

はし だ ス マ
く しま のり こ
なか もと ふみ のり
中 元 文 徳

組織図



職員数

区 分	職員	一般職	技能・労務職	専門職	研究職
計	349	133	20	4	192
本部事務局	24	23	0	0	1
東京国立博物館	106	35	13	3	55
京都国立博物館	39	19	4	0	16
奈良国立博物館	31	15	3	0	13
九州国立博物館	25	8	0	0	17
東京文化財研究所	42	8	0	0	34
奈良文化財研究所	79	23	0	1	55
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	3	2	0	0	1

（平成30年4月1日現在）

国立文化財機構のあらまし

独立行政法人国立文化財機構は、ともに文化財の保存及び活用という同一の目的を有する独立行政法人国立博物館（東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）と、独立行政法人文化財研究所（東京文化財研究所、奈良文化財研究所）の二つの法人の統合により、平成19年4月に発足しました。平成23年10月に開所したアジア太平洋無形文化遺産研究センターを加え、現在では7つの施設で構成されています。

統一的なマネジメントの下で、貴重な国民的財産である文化財の保存・活用を一層効果的かつ効率的に推進するため、各施設はそれぞれ次のような役割を果たしています。

東京国立博物館

我が国の人文系の総合的な博物館として、日本を中心として広くアジア諸地域にわたる文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

京都国立博物館

京都に都が置かれた平安時代から江戸時代の京都文化を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

奈良国立博物館

仏教美術及び奈良を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

九州国立博物館

日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

東京文化財研究所

我が国の文化財の研究を、基礎的なものから先端的・実践的なものまで多様な手法により行い、成果を積極的に公表・活用するとともに、世界の文化財保護に関する国際的な研究交流等を実施する国際協力の拠点としての役割を担っています。

奈良文化財研究所

平城宮跡に隣接し、遺跡・建造物・庭園等の土地に結びついた文化財、南都諸大寺及び近畿周辺を中心とした古社寺等における文化財の保存・活用を図るために発掘調査・研究を行うとともに、全国各地の発掘調査等に対する協力・助言等を行っています。

アジア太平洋無形文化遺産研究センター

アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための調査活動を促進するとともに、無形文化遺産保護の国際的動向に関する情報の収集と発信を行っています。



東京国立博物館



〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

TEL : 03-3822-1111 (代表)

<http://www.tnm.jp/>

周辺地図



●鉄道

JR上野駅公園口、又は鶯谷駅南口から 徒歩10分
東京メトロ上野駅、根津駅、京成電鉄京成上野駅下車徒歩15分

利用案内

開館時間／9：30～17：00

※毎週金・土曜日、10月31日及び11月1日は21：00まで

※4月～9月の日祝休日は18：00まで

※9月21日、22日は22：00まで

※入館は閉館の30分前まで

休館日／月曜日（祝日・休日に当たる場合は開館し、翌平日休館）

ただし4月2日（月）、5月1日（火）、8月13日（月）、12月25日（火）、平成30年3月25日（月）は開館、年末年始（12月26日～1月1日）、6月12日

※特別展やイベント等の開催に伴い、開館時間・休館日は変更になることがあります

観覧料／一般 620（520）円 大学生 410（310）円

※（ ）内は20名以上の団体料金（有料の方が20名以上の場合）

※特別展は別料金

※障がい者とその介護者1名は無料

※満70歳以上、高校生以下及び満18歳未満は総合文化展無料

※国際博物館の日（5月18日。ただし月曜日に当たる場合は翌日）、敬老の日及び12月23日～12月25日は、総合文化展無料



京都国立博物館



〒605-0931
京都府京都市東山区茶屋町527
TEL：075-541-1151（代表）
<http://www.kyohaku.go.jp/>

利用案内

開館時間／名品ギャラリー 9：30～17：00
特別展 9：30～18：00
※毎週金・土曜日は20：00まで（7月～9月の名品ギャラリーは21：00まで）
※庭園のみ開館期間 9：30～17：00
※入館は閉館の30分前まで
休 館 日／月曜日（祝日・休日に当たる場合は開館し、翌平日休館）、年末年始（12月25日～1月1日）
その他、特別展準備及び撤収期間は名品ギャラリーを閉室します。
観 覧 料／一般 520（410）円 大学生 260（210）円
※（ ）内は20名以上の団体料金（有料の方が20名以上の場合）
※特別展及び庭園のみ開館期間等は別料金
※障がい者とその介護者1名は無料
※満70歳以上、高校生以下及び満18歳未満は名品ギャラリー無料

周辺地図



●バス

JR京都駅又は近鉄京都駅から駅前バスD1のりばから100号、D2のりばから206・208号系統にて博物館・三十三間堂前下車すぐ
阪急河原町から市バス207号系統にて東山七条下車徒歩3分

●鉄道

近鉄：丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から七条駅下車、東へ徒歩7分
京阪：七条駅下車、東へ徒歩7分
阪急：河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分
※駐車場は有料となっております。御来館はなるべく公共交通機関を御利用ください。

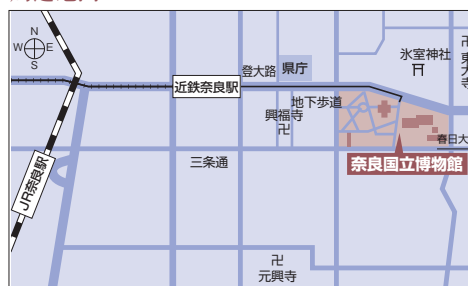


奈良国立博物館



〒630-8213 奈良県奈良市登大路町50
TEL：0742-22-7771（代表）
<https://www.narahaku.go.jp/>

周辺地図



●鉄道

近鉄奈良駅下車 登大路を東へ徒歩15分

●バス

JR奈良駅又は近鉄奈良駅から市内循環バス（外回り）「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

利用案内

開館時間／9：30～17：00
※毎週金・土曜日（年末年始を除く）、名品展、特別陳列は20：00まで
※その他、周辺行事にあわせ開館時間を延長します。
※特別展（共催展を含む）は展覧会ごとに定めます。
※入館は閉館の30分前まで
休 館 日／月曜日（祝日・休日に当たる場合は開館し、翌平日休館）、1月1日
※その他、臨時に休館することがあります。

観 覧 料／一般 520（410）円 大学生 260（210）円

※（ ）内は20名以上の団体料金（有料の方が20名以上の場合）
※特別展は別料金
※障がい者とその介護者1名は無料
※満70歳以上、高校生以下及び満18歳未満は名品展無料
※こどもの日、国際博物館の日（5月18日。ただし月曜日に当たる場合は翌日）、敬老の日、関西文化の日、おん祭お渡り式の日及び節分は、名品展無料



九州国立博物館



〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-2
TEL : 092-918-2807 (代表)
<http://www.kyuhaku.jp/>

利用案内

開館時間／9：30～17：00

※毎週金・土曜日は20：00まで

※入館は閉館の30分前まで

休館日／月曜日（祝日・休日に当たる場合は開館し、翌平日休館）、
年末（12月24日～31日）

観覧料／一般 430（220）円 大学生 130（70）円

※（ ）内は団体料金（有料の方が20名以上の場合）

※特別展は別料金

※障がい者とその介護者1名は無料

※満70歳以上、高校生以下及び18歳未満は文化交流展
（平常展）無料

※国際博物館の日（5月18日。ただし月曜日に当たる
場合は翌日）及び敬老の日は、文化交流展（平常展）
無料

周辺地図



●鉄道

西鉄電車：西鉄福岡（天神）駅から西鉄天神大牟田線（特急約16分/急行約19分）で西鉄二日市駅乗り換え、西鉄太宰府線（約5分）で西鉄太宰府駅下車、徒歩約10分。

※特急/急行料金不要

JR：JR博多駅からJR鹿児島本線（快速約15分）でJR二日市駅下車、JR二日市駅から西鉄二日市駅（徒歩約12分、バス約6分）、西鉄二日市駅から西鉄太宰府線で西鉄太宰府駅下車、徒歩約10分。

●自動車

九州自動車道：太宰府IC又は筑紫野ICから高雄交差点経由で約20分。

福岡都市高速：水城出口から高雄交差点経由で約20分。

●タクシー

JR二日市駅から約15分・福岡空港から約30分。

●西鉄バス

博多バスターミナル（1階11番のりば太宰府行き）から西鉄太宰府駅下車（所要時間約40分）、徒歩約10分。

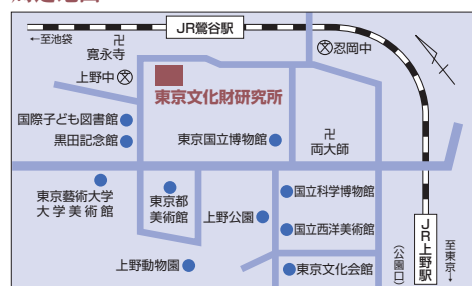


東京文化財研究所



〒110-8713
東京都台東区上野公園13-43
TEL : 03-3823-2241 (代表)
<http://www.tobunken.go.jp/>

周辺地図



●鉄道

JR鶯谷駅南口下車 徒歩10分

JR上野駅公園口下車 徒歩15分

東京メトロ：銀座線・日比谷線上野駅下車 徒歩20分、

千代田線根津駅下車 徒歩20分

京成電鉄：京成上野駅下車 徒歩20分



奈良文化財研究所



※新庁舎外観写真

仮設庁舎（～平成30年9月末）

〒630-8577 奈良県奈良市佐紀町247-1

新庁舎（平成30年10月～）

〒630-8577 奈良県奈良市二条町2-9-1

TEL：0742-30-6733（代表）

<https://www.nabunken.go.jp/>

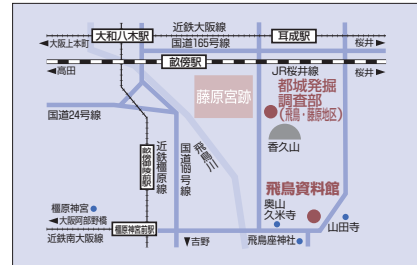
周辺地図 奈良地区



奈良文化財研究所・平城宮跡資料館

- 鉄道
近鉄大和と西大寺駅北口から徒歩10分
- バス
JR・近鉄奈良駅より奈良交通バス「二条町」下車

飛鳥・藤原地区



都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）

近鉄大和八木駅よりタクシーで20分

飛鳥資料館

- タクシー
近鉄橿原神宮前駅よりタクシーで20分
- バス
近鉄橿原神宮前駅、飛鳥駅より明日香周遊バス（かめバス）「明日香奥山・飛鳥資料館西」下車、又は近鉄桜井駅より奈良交通バスで「飛鳥資料館」下車

利用案内

●平城宮跡資料館

開館時間／9：00～16：30（入館は16：00まで）（無料）

休館日／月曜日（祝日・休日に当たる場合は開館し、翌平日休館）、

年末年始（12月29日～1月3日）

お知らせ／ボランティアによる解説を行っています。（無料）

お問合せ／奈良文化財研究所研究支援推進部連携推進課：

0742-30-6753

●藤原宮跡資料室

開館時間／9：00～16：30（無料）

休館日／年末年始（12月29日～1月3日）及び展示替え期間中

お問合せ／奈良文化財研究所都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）：

0744-24-1122

●飛鳥資料館

開館時間／9：00～16：30（入館は16：00まで）

休館日／月曜日（祝日・休日に当たる場合は開館し、

翌平日休館）、年末年始（12月26日～1月3日）

入場料金／一般 270（170）円 大学生 130（60）円

※（ ）内は20名以上の団体料金（有料・無料の方を合わせて20名以上の場合）

※特別展は別料金場合があります。

※障がい者とその介護者1名は無料

※満65歳以上、高校生以下及び満18歳未満は無料

お知らせ／解説を行っています。（事前申込制、無料）

お問合せ／飛鳥資料館：0744-54-3561



アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)

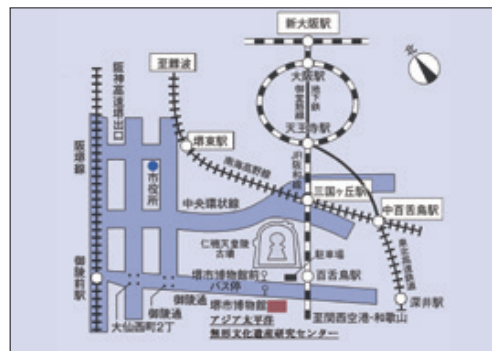


〒590-0802 大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁（堺市博物館内）

TEL：072-275-8050（代表）

<https://www.irci.jp/jp/>

周辺地図



●鉄道

JR西日本阪和線・関西空港線「百舌鳥」駅下車徒歩6分

●バス

南海バス「堺市博物館前」下車徒歩4分

国立文化財機構の事業

国立文化財機構は、次のような事業を展開しています。

1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点として、体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、各国立博物館はその収集方針に沿って適時適切な収集に努めています。

寄贈品や寄託品の受入れについても、文化庁とも連携し、登録美術品制度の活用や相続税の猶予措置などといった税制面での環境整備を進めるなど、積極的に取り組んでいます。

また、国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えていくため、収蔵品等の管理を徹底し、文化財の保存環境を整備するとともに、修理・保存処理を必要とする収蔵品については、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術の担当者との連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次計画的に修理を行い、文化財保存修理所等は文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図っています。

■収集

体系的・通史的にバランスの取れた収蔵品の蓄積を図るため、また、有形文化財の散逸や海外流失を防ぐため、有形文化財の収集（購入・寄贈・寄託）に不断的な努力を続けています。

また、4博物館それぞれの特色を生かし平常展を更に充実させるため、社寺や個人が所有する文化財の寄託を受け入れています。

収蔵品

(件) [参考]

合 計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館			奈良文化財研究所	
総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	国宝	重文
128,208	134	997	117,460	89	643	7,977	29	202	1,893	13	113	878	3	39	1	4

(平成30年3月31日現在)

寄託品

(件)

合 計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文
12,240	196	1,196	3,109	55	260	6,235	86	620	1,962	53	304	934	2	12

(平成30年3月31日現在)

■保存・修理

有形文化財はおおよそ100年に1回の本格修理を重ね、今日まで伝世しています。機構では日常的な展示・保管のための応急（対症）修理や、収蔵品の損傷の進行状況に合わせた計画的な本格修理を実施しています。

(2) 展覧事業

常に来館者のニーズ、最新の学術的動向などを踏まえ、かつ国際文化交流にも配慮しながら質の高い展示、魅力ある展覧会を開催することにより、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化についての理解が深められるよう、国内外への情報発信に努めています。

また、来館者に親しまれる施設を目指し、夜間開館の拡充、施設の多言語化、バリアフリー化、各種案内の充実など、より良い観覧環境の整備とお客様の声を伺いながら管理運営の見直し改善を行うなど、常に来館者の立場に立った展覧事業に努めています。

■展示・公開

国宝・重要文化財をはじめとする古美術品や考古資料等の文化財に接し、美や感動を味わっていただくため、各国立博物館の特色を十分に発揮した平常展・特別展等を開催しています。また、海外の博物館・美術館とも協力・連携して、相互に文化を紹介する展覧会を開催しています。

■博物館来館者数（平成29年度）

合 計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
4,728,996人	2,569,585人	941,931人	549,211人	668,269人



開館120周年記念特別展覧会「国宝」（京都国立博物館）
（平成29年10月3日～11月26日）



日タイ修好130周年記念「日本美術のあゆみ—信仰とくらしの造形—」展（タイ・バンコク国立博物館）
（平成29年12月27日～平成30年2月18日）

（3）教育普及活動等

日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化についての理解促進を図るため、学校や社会教育団体などと連携協力しながら、講演会、ワークショップ等の学習機会を提供しています。また、教育活動の更なる充実を図るためのボランティア活動の支援や、大学との連携事業、博物館関係者・修理技術者等を対象とした研修等による人材育成等の事業も行っています。

また、ウェブを活用した文化財情報の発信や、各種資料の収集と公開、展示や教育事業等の積極的広報を行っています。



第2回ボランティア・フェスタ（奈良国立博物館）



特集展示「京博すいぞくかん—どんなおさかないるのかな？」
ギャラリートーク（京都国立博物館）

（4）有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

有形文化財の収集・保管・展示事業・教育活動等に関する調査研究を計画的に実施し、海外の優れた研究者を招いた国際シンポジウムを開催するとともに職員を海外の研究機関や国際会議に派遣し、先進的かつ有用な情報を集積し調査研究を行っています。

その成果などを刊行物やウェブサイトの活用など様々な方法で広く公開することにより、次世代への継承及び我が国の文化の向上に寄与しています。



水中遺跡の保存活用に関する調査研究（九州国立博物館）

(5) 国内外の博物館活動への寄与

収蔵品を国内外で御覧いただけるよう保存状態を勘案しつつ、国内外の博物館等へ積極的に貸与するとともに、指導・助言を行い、情報交換等及び文化財等防災ネットワークの形成に努めています。

国際シンポジウム「ミュージアムにおける日本美術の再発見」
(東京国立博物館) (平成30年1月12日～13日)



(6) 文化財の活用

平成30年7月、日本の文化財公開・活用のナショナル・センターとして、独立行政法人国立文化財機構本部に文化財活用センターが発足しました。

文化財活用センターは、文化財の保存と活用の両立に留意しつつ、民間企業等と連携して文化財の新たな活用方法を開発するとともに、地方や海外の博物館・美術館等に関する支援を強化することにより、国内外の人々が日本の貴重な文化財に触れる機会を提供します。

2 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査研究を行っています。

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究や文化財の保存・活用のための調査研究に取り組んでいます。その成果は、基礎的データの増大や学術的知見の蓄積、文化財指定等の基礎資料の提供につながり、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関し、個別的・総合的に寄与しています。



油污損のクリーニングに関する研究と実施
(東京文化財研究所)

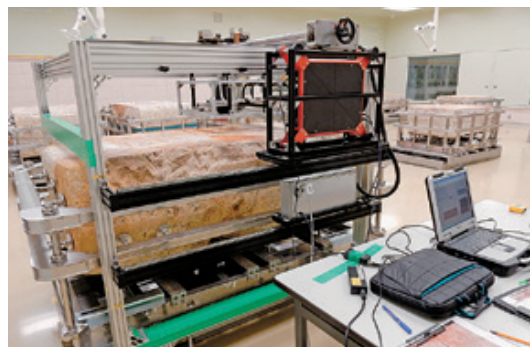


名勝法華寺庭園の実測調査 (奈良文化財研究所)

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

文化財の価値や保存に関する研究の進展を図るため、次のような研究開発及び調査研究に取り組んでいます。

- ①文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与しています。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与しています。
- ②文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進しています。



テラヘルツ分光法による粗鬆化した漆喰部分の検出のテスト施行 (東京文化財研究所)

(3) 文化遺産保護に関する国際協働

海外の文化遺産情報の収集・研究・発信や、諸外国での文化遺産保護協力事業実施のほか、文化遺産の保存・修復に関する人材育成や技術移転などの事業を総合的に展開することで、我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、この分野での国際協力を推進しています。また、アジア太平洋地域において活動する研究者や研究機関等を支援し調査研究活動を促進するとともに、関係機関と連携のもと、自然災害等によって危機に瀕したものに重点を置きつつ当該地域の無形文化遺産保護のための調査研究を行うなど、人類共通の財産である有形・無形の文化遺産の保護のための活動を通じて、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献しています。



国際シンポジウム「無形文化遺産をグローバルに見る―地域社会と研究者、国家、ユネスコの相互作用―」(IRCI)

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

文化財に関する資料の収集・整理・保管を行うとともに、情報や調査研究成果を広く外部に公開・提供するために、文化財に関する資料の電子化の推進及び専門的アーカイブの拡充、公開講演会や国際シンポジウムの開催、各施設ウェブサイトの充実などに取り組んでいます。また、奈良文化財研究所の平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館においては、調査研究成果に関する展示を充実させ、広く一般の方に理解を深めていただけるよう努めています。



第51回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」(東京文化財研究所)

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

これまでの調査研究成果を活かし、地方公共団体等のニーズを踏まえた研修を実施し、知識・技術の向上に寄与するとともに、連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材育成を行っています。また、平成23年に発生した東日本大震災では、文化庁の要請により行った文化財等救援活動において、中心的な役割を担いました。この経験を活かし、今後予想される巨大地震等大規模災害に対し文化財等の防災・救援等を行うネットワークを構築するため、全国的な連携・協力体制の整備に向けて調査研究、人材育成等を行っています。



文化財担当者専門研修「保存科学Ⅳ(遺構・石造文化財)課程」実習風景(奈良文化財研究所)

(6) 文化財防災ネットワーク推進事業

頻発する様々な自然災害から文化財を護るため、専門機関や地方公共団体との連携を強化しつつ、被災文化財の応急処置方法の研究、文化財防災に関する一般の方々への普及啓発活動などを進めています。

災害発生時には地方公共団体と国内の専門機関24団体が連携して迅速に情報を収集し、文化庁との緊密な連携のもと、被害を最小限に留めるための専門家の派遣や情報提供を行います。応急処置の研究成果を基にした助言を行い、またそれらの対応を検証し、シンポジウムや地方公共団体専門職員への研修等を行うことで、更なる文化財防災へと繋げています。



水損紙資料の応急処置についての研修(奈良文化財研究所)

TNM 東京国立博物館

我が国の人文系の総合的な博物館として、日本を中心として広くアジア諸地域にわたる文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。



東京国立博物館長
銭谷 眞実

東京国立博物館は、明治5年（1872）に創立された、日本で最も長い歴史を持つ博物館です。数多くの国宝・重要文化財をはじめとした、11万7千件にのぼる文化財を収蔵し、日本を中心に広くアジア諸地域にわたる有形文化財の収集、保存、修復、展示、調査研究、教育普及などの事業を行っています。

当館は、日本随一の収蔵品を活かした展示に加え、季節の催しを実施することでより魅力ある総合文化展を目指しています。平成29年度より、外国人観光客及び国内の来館者の展示鑑賞機会の拡大を目的として、通年で金・土曜日に21時まで開館時間を延長し、夜間に御来館しても楽しんでいただける様々なイベントを実施しています。

また、展示だけでなく、製作体験などを通して文化財に親しみ理解を深めながら鑑賞をサポートするスクールプログラム、ガイドツアーやワークショップなど様々なプログラムを多数御用意しています。

東京国立博物館は、子どもから大人まで、そして当館を訪れる世界中の人々に御満足いただける博物館づくりに今後も力を入れてまいります。

■展示・公開

●総合文化展

総合文化展は、当館の収蔵品、寄託品を展示するもので、当館の展示事業の中核を成すものです。年間370回程度の展示替を定期的に実施し、平成30年度は約7,200件の文化財を展示・公開する予定です。

各展示館ごとの特色は次のようになっています。

本 館：2階は縄文時代から江戸時代までの日本美術の流れをたどる時代別展示、1階は彫刻、陶磁、刀剣などのジャンル別展示で構成しています。

東 洋 館：中国、朝鮮半島、東南アジア、西域、インド、エジプトなどの美術と工芸、考古遺物を展示しています。

平 成 館：考古展示室（1階）では、土偶、銅鐸や埴輪をはじめとする旧石器時代から江戸時代までの考古遺物を展示し、企画展示室（1階）では特集や教育普及事業に関連した展示などを行っています。

法隆寺宝物館：奈良の法隆寺から皇室に献納された宝物300件余りを収蔵・展示しています。

表 慶 館：近年は、特別展の展示会場やイベント会場として活用しています。

黒田記念館：日本近代画家の黒田清輝の遺言により竣工された建物です。黒田清輝の作品を展示・公開しています。

●特集

総合文化展の一部として、特にテーマ性、企画性の高い内容で構成する特集を行っています（展示期間は予定です）。

- ・「日本の仮面 能狂言面の神と鬼」（平成30年3月20日～4月22日）
- ・「平成30年新指定 国宝・重要文化財」（平成30年4月17日～5月6日）
- ・明治150年記念「書と絵が語る明治」（平成30年7月10日～9月2日）
- ・「ワヤン—インドネシアの人形芝居—」（平成30年9月4日～12月25日）
- ・「ラファエル・コランと黒田清輝」（平成31年1月22日～4月14日） ほか多数



夜間開館告知のポスター



親と子のギャラリー「びょうぶとあそび」
（平成29年7月4日～9月3日）



特別展「名作誕生—つながる日本美術」
（平成30年4月13日～5月27日）

●特別展

研究成果の公開の場として、またお客様の要望に応える場として、特別展を開催しています。以下は平成30年度に開催する展覧会です。

- ・創刊記念『國華』130周年・朝日新聞社140周年特別展「名作誕生一つながる日本美術」（平成30年4月13日～5月27日）
- ・特別展「縄文ー1万年の美の鼓動」（平成30年7月3日～9月2日）
- ・東京国立博物館・フィラデルフィア美術館交流企画特別展「マルセル・デュシャンと日本美術」（平成30年10月2日～12月9日）
- ・特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」（平成30年10月2日～12月9日）
- ・日中平和友好条約締結40周年記念特別企画「中国近代絵画の巨匠 齊白石」（平成30年10月30日～12月25日）
- ・特別展「顔真卿 王羲之を超えた名筆」（平成31年1月16日～2月24日）

●海外展

- ・ジャポニスム2018「縄文ー1万年の美の鼓動ー」（仮称）：パリ日本文化会館（フランス）（平成30年10月17日～12月8日（予定））

■文化財の収集・保管・修理

日本を中心とするアジア諸地域の文化財の体系的な陳列を目指し、購入・寄託・寄贈によって、文化財の収集に努めています。年月を経て劣化した文化財を将来にわたって安全に公開できるように、展示室や収蔵庫の環境改善、展示・輸送方法の改良、文化財の状態診断、年間約90件の本格修理や年間約500件の応急（対症）修理を実践しています。

■教育普及

来館者にとってのより良い博物館体験の創出を目指して、多くの人々が博物館に親しむを感じられる機会の提供と、日本と東洋の文化の理解を深めるための手助けを行います。学校等との連携やボランティア活動の支援を行うとともに、先導的な事業のモデル化を図り、我が国の中核の博物館にふさわしい教育普及活動を実施します。

○学習機会の提供

ギャラリートーク、講演会、連続講座、ワークショップ、保存と修理のバックヤードツアー、その他展示関連イベント

○教育普及的展示

親と子のギャラリー

○学校との連携

スクールプログラム（鑑賞支援・職場体験・盲学校対応）
教員研修（特別展、総合文化展を対象として）

○大学との連携

キャンパスメンバーズ制度、インターンシップ学生の受入

○ボランティア活動

各種教育普及、館内案内、ガイドツアー等



キッズデー「トーハク劇場へようこそ！」
（平成29年7月30日）



生涯学習ボランティアによる触知図を使った館内案内風景

■調査研究

日本を中心に広くアジア諸地域にわたる文化財について計画的な調査研究を実施し、文化財の収集・保存・展示活動に反映しています。調査研究には科学研究費補助金や文化活動の助成金も活用しています。

平成30年度の研究テーマの一部を紹介します。

- ・仏教美術等の光学的手法による共同研究
- ・「日本の仮面 能狂言面の神と鬼」ほか特集に関連する調査研究
- ・関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査研究
- ・特別調査「法隆寺献納宝物」「書跡」「工芸」「彫刻」「絵画」



調査研究（書跡）の様子

沿革

- 明治5年(1872) 旧湯島聖堂の大成殿で開催された日本初の博覧会を機に、「文部省博物館」として発足
- 明治8年(1875) 内務省所管となる。陳列区分は天産、農業山林、工芸器械、芸術、史伝、教育、法教、陸海部の8部門
- 明治15年(1882) 上野寛永寺本坊跡の現在地に移転
- 明治22年(1889) 宮内省所管の「帝国博物館」となる
- 明治33年(1900) 「東京帝室博物館」と改称
- 明治42年(1909) 表慶館が開館
- 大正12年(1923) 関東大震災により、旧本館が損壊
- 大正14年(1925) 天産部の列品を文部省の東京博物館(現在の国立科学博物館)などに移管
- 昭和13年(1938) 現在の本館が開館
- 昭和22年(1947) 文部省に移管「国立博物館」と改称
- 昭和27年(1952) 「東京国立博物館」と改称
- 昭和39年(1964) 法隆寺宝物館(旧館)が開館
- 昭和43年(1968) 文化庁の発足により同庁に移管。東洋館が開館
- 昭和59年(1984) 資料館が開館
- 平成11年(1999) 法隆寺宝物館が開館、つづいて平成館が開館
- 平成13年(2001) 独立行政法人国立博物館東京国立博物館となる
- 平成19年(2007) 独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館となる

施設概要

施設概要 (m ²)			
土地面積	120,270 (黒田記念館、柳瀬荘含む)		
建 物	建築面積	22,438	延 面 積 72,222
展 示 館	展示面積 計		18,199
	収蔵庫面積 計		7,836
本 館	建築面積	6,602	延 面 積 22,416
	展示面積	6,573	収蔵庫面積 4,028
東 洋 館	建築面積	2,892	延 面 積 12,531
	展示面積	4,250	収蔵庫面積 1,373
平 成 館	建築面積	5,542	延 面 積 19,406
	展示面積	4,471	収蔵庫面積 2,119
法隆寺宝物館	建築面積	1,935	延 面 積 4,031
	展示面積	1,462	収蔵庫面積 291
表 慶 館	建築面積	1,130	延 面 積 2,077
	展示面積	1,179	収蔵庫面積 0
黒田記念館	建築面積	724	延 面 積 1,996
	展示面積	264	収蔵庫面積 25
そ の 他	建築面積	3,613	延 面 積 9,765



京都国立博物館

京都に都が置かれた平安時代から江戸時代の京都文化を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。



京都国立博物館長
佐々木 丞平

京都は平安遷都以降、明治維新に至るまで、天皇をいただく皇都であり続けました。この1000年の永きにわたり栄えた都としての文化は文字どおり日本文化の本流そのものでもありました。

京都国立博物館はこの京都の伝統文化の証としての様々な文化財を中心とし、日本の伝統文化を世界に発信すべく活動を続けてまいりました。今後も「日本の伝統文化を世界へ」を大きな目標とし続けていきたいと思ひます。そのためにはあらゆる人々に関心を持っていただき、博物館に足を運んでいただかなければなりません。私どもは「人に優しい博物館」であると同時に「地域に根ざした博物館」を目指します。教育の場であつたり、癒しの空間であつたり、生涯学習の場であつたり、さらには国内外からの観光の起点でもありたいと思ひます。平成26年9月には「平成知新館」がリニューアルオープンいたしました。この新しい設備と機能を備えた新館【平成知新館】を、最大限に活用して、皆様に愛される京都国立博物館を目指したいと思ひます。

また、平成29年は京都国立博物館開館120周年記念の年でした。また新たな気持ちで博物館の役割を認識し直し、その原点に立ち返って様々な活動をより積極的に推進していきたいと思ひております。

■ 展示・公開

● 名品ギャラリー

平成26年9月にオープンした「平成知新館」名品ギャラリーでは、陶磁・考古・絵画・書跡・工芸・彫刻といった分野ごとに展示室が設けられており、様々なテーマの下、収蔵品・寄託品をあわせ約1万4千件の収蔵品の中から選ばれた作品が展示されており、京文化の神髄をお楽しみいただけます。随時展示替が行われており、足を運ぶ度、新しい作品との出会いがあります。

● 特別展等

- ・ 特別展「池大雅 天衣無縫の旅の画家」(平成30年4月7日～5月20日)
- ・ 特別展「京のかたな 匠のわざと雅のこころ」(平成30年9月29日～11月25日)
- ・ 日中平和友好条約締結40周年特別企画「中国近代絵画の巨匠 齊白石」(平成31年1月30日～3月17日)



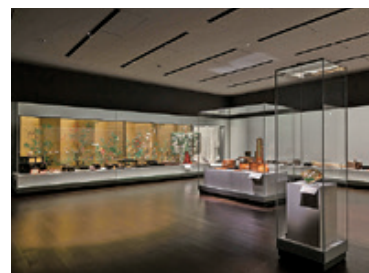
平成知新館



開館120周年記念特別展覧会「海北友松」
(平成29年4月11日～5月21日)



開館120周年記念特別展覧会「国宝」
(平成29年10月3日～11月26日)



特別企画「貝塚廣海家コレクション受贈記念 豪商の蔵－美しい暮らしの遺産－」
(平成30年2月3日～3月18日)

■ 文化財の収集・保管・修理

京都国立博物館では設立以来、社寺に伝来してきた名宝の寄託を多数受けています。また、京都文化に関する美術・考古資料をはじめとする文化財の購入及び寄贈によって、収蔵品は年々増加しています。

こうした文化財を後世に伝えるためには、適切な修理や保存処置を施す必要があります。昭和55年には日本で最初の総合的文化財修理専用施設として、文化財保存修理所が業務を開始しました。



文化財保存修理所

■教育普及

展覧会及び展示作品への理解を深め、文化財への関心を高めるために、展覧会・ウェブサイト・教育現場などを通して様々な事業を行っています。

○展覧会内容及び展示作品の理解を深めるための活動

・「土曜講座」「記念講演会」などの講演会、京博ナビゲーターによる体験ブース「ミュージアム・カート」の運営、各種ワークショップの実施、鑑賞ガイドやワークシート、博物館ディクショナリー等の配布。

○文化財への関心を高めるための活動

・夏期講座・シンポジウムなどの講演会、高精細デジタル複製美術品を用いた文化財ソムリエによる京都市内小中学校への訪問授業（文化財に親しむ授業）、館外でのワークショップの開催

○教育機関との連携・協力活動

・キャンパスメンバーズ制度、京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座担当、文化財ソムリエの育成、訪問授業、教員に向けた研修会の実施

○ボランティア活動の支援

・京博ナビゲーターや文化財ソムリエの運営・育成



京博ナビゲーターによる「ミュージアム・カート」



「貝合わせで遊ぼう！」ミュージアムキッズ！フェア in みなみそうま2107（平成29年10月9日）

■調査研究

当館では京都市を中心とした近畿地方の古社寺の文化財悉皆調査を昭和54年度から実施しています。その一環として平成28年度から4年にわたって科学研究費補助金による助成を受け「河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究」というテーマの下、大阪・河内地域に所在する社寺の文化財を中心に調査を行っています。その他、収蔵品等についての調査研究を継続しており、その成果を展示に反映させたり研究紀要「学叢」に掲載したりしています。



科学研究費による観心寺（河内長野市）の調査風景

■その他の活動

○京都・らくご博物館

親しまれる博物館づくりの一環として、我が国の伝統文化であり、京都が発祥の地である落語を「京都・らくご博物館」と題して、定期的に上演しています。



京都・らくご博物館

沿革

明治22年(1889) 宮内省所管「帝国京都博物館」として設置
明治30年(1897) 開館
明治33年(1900) 「京都帝室博物館」と改称
大正13年(1924) 京都市に下賜、「恩賜京都博物館」と改称
昭和27年(1952) 恩賜京都博物館を国に移管、文化財保護委員会の附属機関として「京都国立博物館」と改称
昭和41年(1966) 平常展示館が開館
昭和43年(1968) 文化庁の附属機関となる
昭和44年(1969) 特別展示館、表門、同礼売場及び袖塀が「旧帝国京都博物館」として重要文化財に指定
昭和48年(1973) 第1回土曜講座開講
昭和55年(1980) 文化財保存修理所業務開始
平成13年(2001) 百年記念館（仮称）新築事業の一環として南門が竣工
平成13年(2001) 「独立行政法人国立博物館 京都国立博物館」となる
平成19年(2007) 「独立行政法人国立文化財機構 京都国立博物館」となる
平成21年(2009) 新展示館「平成知新館」建替え工事を開始
平成25年(2013) 「平成知新館」竣工（8月）
平成26年(2014) 「平成知新館」開館（9月）

施設概要

施設概要 (m ²)			
土地面積			53,182
建 物	建築面積	延 面 積	31,828
展 示 館	展示面積 計		5,657
	収蔵庫面積 計		5,421
明治古都館 （展示休止中）	建築面積	3,015	延 面 積 3,015
	展示面積	2,070	収蔵庫面積 803
平成知新館	建築面積	5,568	延 面 積 17,997
	展示面積	3,587	収蔵庫面積 2,710
旧管理棟	建築面積	590	延 面 積 1,954
資 料 棟	建築面積	414	延 面 積 1,125
文化財保存修理所	建築面積	728	延 面 積 2,856
技術資料参考館	建築面積	101	延 面 積 304
東収蔵庫 （改修工事中）	建築面積	1,084	延 面 積 1,996
			収蔵庫面積 1,412
北収蔵庫	建築面積	310	延 面 積 682
			収蔵庫面積 496
そ の 他	建築面積	1,707	延 面 積 1,899

奈良国立博物館

仏教美術及び奈良を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。



奈良国立博物館長
松本 伸之

奈良国立博物館は、明治28年（1895）の開館以来、南都諸社寺の御協力をいただきながら、仏教美術を中心とした文化財の収集・保管・調査研究や教育普及活動を行い、神と仏が融合した我が国の仏教文化のもつ優れた芸術性やその背景にある歴史について紹介してまいりました。今後は、こうした当館の特色を基盤に、様々な文化財と奈良のもつ歴史・文化的景観の有機的な連携を念頭に、新たな奈良文化の発信の拠点として、国際化や情報化への一層の充実に努め、広く国民の皆様親しんでいただける博物館を目指します。

■展示・公開

●仏教美術の展示

当館では、特別展や特別陳列以外にも、国宝・重要文化財を多数含む選りすぐりの仏教美術の名品を公開しています。なら仏像館では、名品展「珠玉の仏たち」と題し、主として飛鳥から鎌倉時代にいたる日本の彫刻史を代表する優れた仏像の数々を、渡り廊下でつながれた青銅器館では、中国古代の青銅器の逸品を展示しています。また、西新館では、名品展「珠玉の仏教美術」と題し、絵画・工芸・書跡・考古の各ジャンルにわたる日本仏教美術の粋ともいべき作品群をご覧いただけます。さらに、随時、ジャンルの枠にとらわれない特集展示なども開催しています。

●特別陳列

各分野で行う中規模のテーマ展示です。

- ・おん祭と春日信仰の美術（平成30年12月11日～平成31年1月20日）
- ・お水取り（平成31年2月8日～3月14日）
- ・覚盛上人770年忌 鎌倉時代の唐招提寺と戒律復興（仮称）（平成31年2月8日～3月14日）

●特別展

- ・創建1250年記念特別展「国宝 春日大社のすべて」（平成30年4月14日～6月10日）
- ・修理完成記念特別展「糸のみほとけー国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏ー」（平成30年7月14日～8月26日）
- ・第70回正倉院展（平成30年 秋）（予定）



特別展「快慶 日本人を魅了した仏のかたち」
（平成29年4月8日～6月4日）



1000年忌特別展「源信 地獄・極楽への扉」
（平成29年7月15日～9月3日）



第69回正倉院展
（平成29年10月28日～11月13日）

■文化財の収集・保管・修理

貴重な国民の財産である有形文化財を守るため、購入・寄贈・寄託により、有形文化財の収集に努力しています。

展示室や収蔵庫においては、常時適切な温湿度管理を実施し、収集した文化財の保存環境にも細心の注意を払っています。

また、我が国に伝わる文化財は紙、木など脆弱な材質のものが多く、これらを後世にいかに関長く伝えるかが大きなテーマになっています。当館では平成14年に文化財保存修理所を設置し、文化財の計画的修理を実施しています。

■教育普及

文化財に対する理解を深めるため、様々な教育普及活動に力を入れています。

- ①文化財に関する情報資料の収集と公開
- ②児童・生徒を対象とした事業
主に小学生を対象とした世界遺産学習、教員向け講座
- ③講演会・講座等の実施
公開講座、サンデートーク、夏季講座、正倉院学術シンポジウム、国際研究集会
- ④大学等との連携
キャンパスメンバーズ制度、インターンシップ学生の受入れ、奈良女子大学及び神戸大学との連携講座
- ⑤ボランティア活動の充実



ボランティア活動



夏季講座「地獄・極楽と浄土信仰の美術」会場風景



不動護摩次第調査及び撮影風景



施設の有効活用として会場を提供した「柿の日」

■調査研究

文化財に関する調査研究は、研究機関である奈良国立博物館の根幹を支える最も重要な活動です。その成果は名品展や特別展に反映され、展示活動の充実に資するとともに、これまで蓄積された学術情報資料は仏教美術資料研究センターで広く公開しています。当館では、平成30年度も以下のテーマで調査研究を行い、着実な成果をあげてまいります。

- ①収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究
- ②復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究
- ③古代の写経と聖教に関する基礎的研究
- ④仏教工芸・上代工芸の総合的調査
- ⑤墳墓出土品の調査研究
- ⑥南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究
- ⑦東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究
- ⑧特集展示に関連する調査研究
- ⑨特別展等の開催に伴う調査研究
- ⑩歴史・伝統文化の教育普及に資するための調査研究
- ⑪収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究
- ⑫文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究
- ⑬保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究
- ⑭文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究

沿革

明治22年(1889) 宮内省所管の「帝国奈良博物館」として設置
 明治28年(1895) 開館(4月29日)
 明治33年(1900) 奈良帝室博物館と改称
 大正3年(1914) 正倉院掛が置かれる
 昭和22年(1947) 宮内省より文部省に移管される
 昭和25年(1950) 文化財保護委員会附属機関となる
 昭和27年(1952) 奈良国立博物館と改称
 昭和43年(1968) 文化庁の附属機関となる
 昭和48年(1973) 陳列館新館(西新館)開館
 昭和55年(1980) 仏教美術資料研究センター設置
 平成7年(1995) 開館百周年記念式典挙行
 平成10年(1998) 第2新館(東新館)開館
 平成13年(2001) 「独立行政法人国立博物館 奈良国立博物館」となる
 平成14年(2002) 文化財保存修理所開所
 本館附属棟を中国古代青銅器の展示室とする(現在の青銅器館)
 平成19年(2007) 「独立行政法人国立文化財機構 奈良国立博物館」となる
 平成22年(2010) 本館を「なら仏像館」と改称
 平成28年(2016) なら仏像館リニューアルオープン(4月29日)

施設概要

(m ²)			
土地面積			78,760
建 物	建築面積	延 面 積	19,116
展 示 館	展示面積 計		4,079
	収蔵庫面積 計		1,558
なら仏像館	建築面積	1,512	延 面 積 1,512
	展示面積	1,261	
青銅器館	建築面積	341	延 面 積 664
	展示面積	470	
東 新 館	建築面積	1,825	延 面 積 6,389
	展示面積	875	収蔵庫面積 1,522
西 新 館	建築面積	1,649	延 面 積 5,396
	展示面積	1,473	
仏教美術資料研究センター	建築面積	718	延 面 積 718
文化財保存修理所	建築面積	319	延 面 積 1,036
地下回廊	延 面 積	2,152	収蔵庫面積 164
そ の 他	建築面積	405	延 面 積 1,249

日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。



九州国立博物館長
島谷 弘幸

九州は日本列島の西端に位置していますが、大陸に近いことから、古くから人とモノの行き来が盛んに行われてきました。この地には古代に外国使節を受け入れた大宰府政庁が置かれていました。そうした歴史的背景や九州の人々の熱望を踏まえて、平成17年に日本文化の成立をアジア諸地域との関わりで捉えることをコンセプトにした国立博物館が、この福岡県太宰府市に誕生しました。

当館は、これまでに1,500万人を超える多くの来館者をお迎えしています。近年は中国や韓国、ベトナム、タイからのお客様が多いのも特色のひとつです。これからも、アジアの文化の相互理解を深める博物館となるために、様々な研究や活動を展開し、地域の方々にも開かれた博物館として歩み続けていきたいと思っています。

■展示・公開

●文化交流展（平常展）

文化交流展示室では、展示テーマを決めて期間限定で行う特集展示（旧称：特別展示）を開催し、いつでも新しい展示品に出会える場を皆様にお届けしています。更に、映像や実際に触れることができる展示により、迫力だけでなく臨場感に溢れる展示を行っています。

●特集展示

平成30年度実施予定の主な特集展示は次のとおりです。

- ・「茶の湯を楽しむⅧー博多文琳と黒田家の茶道具ー」（平成30年4月10日～6月3日）
- ・「京都・仁和寺観音堂 千手観音像とその仲間たち」（平成30年7月3日～9月2日）
- ・「国宝 銅鐸絵画」（平成30年7月10日～9月2日）
- ・「全国高等学校考古名品展2018」（平成30年7月21日～9月9日）
- ・坂本五郎コレクション受贈記念「北斎と鍋島、そして」（平成30年9月12日～10月21日）
- ・大宰府史跡発掘50年記念「大宰府研究の歩み」（平成30年9月12日～12月23日）
- ・「平戸松浦家伝来の伊能図」（平成30年10月30日～12月23日）
- ・「玉ー古代を彩る至宝ー」（平成31年1月1日～2月24日）

●特別展

特別展は、初めての方でも十分楽しめる、よく知っている方は更に楽しめる、そんな展覧会を目指して企画・展示を行っています。平成30年度実施予定の特別展は次のとおりです。

- ・「至上の印象派展 ビュールレ・コレクション」（平成30年5月19日～7月16日）
- ・明治150年記念「オークラコレクション」（平成30年10月2日～12月9日）
- ・「京都・醍醐寺ー真言密教の宇宙ー」（平成31年1月29日～3月24日）

■文化財の収集・保管・修理

●収集

日本とアジア諸国との文化交流と日本文化の成り立ちを分かりやすく展示するための文化財（美術・工芸・考古・歴史及び民族資料等）を重点的に収集しています。また、展示の一層の充実を図るために、社寺や個人に対し、積極的に寄贈や寄託を働きかけています。

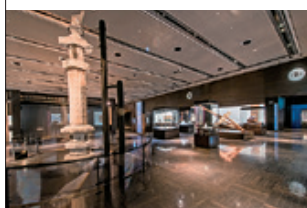
●保管

貴重な文化財を保存・管理する「収蔵庫」は、直接外気と接しないよう中間に空気層を設けた二重構造にするとともに、温湿度変化がより少ない建物の中心に配置しています。また、その空調設備は恒温恒湿仕様の空調機を採用し、庫内温湿度をほぼ一定に維持しています。更に、内装材料は地元九州各地から調達した杉板と調湿材を壁や天井に使用することで、空調設備のみに頼らない湿度環境を保っています。

当館は地震時の文化財の転倒などによる破損を防ぐために免震建物になっています。建物へ地震の揺れが直に伝わるのを防ぐことで、貴重な文化財を地震から守ることができます。

●修理

6つの文化財保存修復施設（補修紙作成等、古文書・書跡・典籍、絵画、彫刻、考古、漆工）では、伝統的技術と人文科学及び科学技術を融合した保存修理を実施しています。実際に修理を行っているのは、国指定文化財の修理実績がある技術者で、歴史、美術、工芸、考古などの各専門分野の研究員と、それぞれの専門的立場から意見を出し合い保存修理を進めています。また、最先端の成分分析装置や精密計測技術（蛍光X線分析装置・X線CT装置等）によって、修理対象文化財の科学的調査にも取り組んでいます。



文化交流展（平常展）



特別展示「白隠さんと仙厓さん」
（平成30年1月1日～2月12日）



特別展「王羲之と日本の書」
（平成30年2月10日～4月8日）

■教育普及・交流活動

●教育普及活動

①体験型展示室「あじっば」での活動

日本と交流のあった諸地域の生活文化を比較体験する体験型展示室で、教育キットの開発や教育機関と連携したプログラムの開発及び一般来館者が博物館の諸活動を体験できるプログラムの開発等を行っています。

②文化交流展・特別展開連プログラム等の開発・実施

- ・展示理解プログラムの開発・実施
- ・ワークショップの実施
- ・ガイドブックの制作

③学校用教育キット「きゅうぱっく」の貸出

④大学等との連携を強めるキャンパスメンバーズ制度の実施

⑤「きゅうはくの絵本」を通じた教育普及活動

⑥ボランティア活動の支援

展示解説・教育普及・館内案内（バックヤードツアーを含む）・環境・イベント活動・資料整理などのボランティア活動を支援しています。

●交流活動

①近隣地域をはじめ、企業等と連携した交流事業の実施や施設の有効活用を図るなど利用サービスの向上に努めています。

②アジアを中心とした博物館交流の推進

・韓国の国立扶餘博物館・国立公州博物館・国立韓国伝統文化大学校、中国の南京博物院・内蒙古博物院・中国文物交流中心・成都博物館・瀋陽故宮博物院、ベトナム国立歴史博物館、タイ文化省芸術局と学術文化交流協定を締結し、相互交流を推進しています。

③国際シンポジウム、講演会の開催



ボランティア活動：九博子どもフェスタ

■調査研究

当館のコンセプトである「日本とアジア諸国との文化交流」に関する調査研究や文化財の保存・修復のための科学的調査研究を実施することにより、その研究成果を文化財の収集・保管・展示に反映させています。また、これらの研究には（独）日本学術振興会による科学研究費助成事業等も活用しています。

- ・X線CTスキャナ等による文化財の構造技法解析に関する調査研究
- ・近世キリスト教に関する研究
- ・「国宝 銅鐸絵画」「全国高等学校考古名品展」ほか特集展示、特別公開に関連する調査研究
- ・特別展「明治150年記念 オークラコレクション」ほか特別展に関する調査研究
- ・特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究
- ・博物館における文化財保存修復に関する研究
- ・博物館危機管理としての持続的IPMシステムの研究
- ・水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究



「洛中洛外図屏風」の保存状態調査

■刊行物

当館の活動を広く理解してもらうために様々な刊行物を出版しています。

i) 研究紀要「東風西声」

一九州国立博物館の調査研究成果を冊子にしたもの（年1回発行）

ii) 文化交流展示ビジュアルガイドブック「Asiage(アジアージュ)」

一文化交流展示（平常展示）を分かりやすく紹介したガイドブック

iii) 季刊情報誌「アジアージュ」

一各展覧会の紹介を中心とした広報誌（年4回発行）

iv) 「きゅうはくの絵本」

子どもたちに日本の歴史・文化を分かりやすく、親しみをもって理解してもらうために当館独自の絵本を制作しています。

沿革

平成6年(1994)	文化庁が「新構想博物館の整備に関する調査研究委員会」（以下、「委員会」という。）を設置
平成8年(1996)	文化庁が新構想博物館を九州国立博物館とし、その設置候補地が福岡県太宰府市に決定
平成9年(1997)	同委員会が「九州国立博物館 基本構想」を取りまとめる
平成11年(1999)	委員会が「九州国立博物館 基本計画」を策定
平成12年(2000)	文化庁、福岡県及び財団法人九州国立博物館設置促進財団（以下「財団」という。）が共同で「建築基本設計」を完了
平成13年(2001)	文化庁と福岡県が共同で設置した「九州国立博物館（仮称）設立準備専門家会議」が「常設展示計画」を策定
平成14年(2002)	文化庁、福岡県及び財団が共同で「展示基本設計」を完了
平成15年(2003)	独立行政法人国立博物館（以下「国立博物館」という。）が「九州国立博物館設立準備室」を設置
平成16年(2004)	文化庁、福岡県及び財団が共同で「建設工事（3年計画の第1年次）」に着手
平成17年(2005)	国立博物館及び福岡県で「展示工事（2年計画の第1年次）」に着手
	文化庁、福岡県及び財団が「建設工事」を完了（建物が完成）
	文化庁、国立博物館及び福岡県が正式名称を「九州国立博物館」と発表
	国立博物館及び福岡県が「展示工事（2年計画の第2年次）」を完了

国立博物館が九州国立博物館を設置
10月16日 一般公開開始
「独立行政法人国立文化財機構 九州国立博物館」となる
平成20年(2008) 九州国立博物館で日中韓首脳会議を開催
平成24年(2012) 来館者1,000万人達成
平成27年(2015) 開館10周年

施設概要

		(m ²)	
土地面積		法人 10,798	県 149,046
建 物		建築面積	14,623
		延 面 積	30,675
	法人 9,300	県 5,780	共用 15,595
展示・収蔵面積		展示面積 計	5,444
		県 1,375	共用 225
		収蔵庫面積 計	4,518
	法人 2,744	県 1,335	共用 439

※土地・建物は福岡県と法人が有しています。

東京文化財研究所



東京文化財研究所長
亀井 伸雄

東京文化財研究所は、国の文化財行政を支える役割を果たすべく、有形・無形の様々な文化財全般について基礎的・体系的・先端的・実践的な調査研究を進めています。得られた成果等については、これを積極的に公表するとともに、地方公共団体等への文化財保護に関する指導・助言を行い、更には、アジアを中心とする諸外国における文化財の保護に関して、人材育成や保存修復技術の移転といった国際協力事業を実施しています。

当面の重点課題としては、多年にわたり当研究所に蓄積されてきた各種の調査研究成果や基礎資料等アーカイブ構築を図るとともに、保存修復の分野においては、博物館資料の保存・修復・公開等に関する調査研究も視野に入れた国立文化財機構全体としての一体的な役割の推進、さらに、無形の文化財に関しては、芸能や伝統的な技術、祭礼行事等を中心に全国的な基礎資料の収集と公開などに力点を置いて調査研究を行っています。

このほか、海外の文化遺産の保護に関し、我が国としての一体的・効果的な国際貢献を推進するための拠点組織である「文化遺産国際協力コンソーシアム」の事務局が当研究所内に置かれており、これを支援しています。

■研究組織

●文化財情報資料部

文化財情報資料部は、文化財研究のためのアーカイブの拡充を図ることを目指して、文化財に関する資料の収集・蓄積・整理・公開、及び効果的な情報発信方法の研究を進めています。同時に、文化財学や美術史研究等の今日的な課題にも取り組み、新しい資料学の確立を目指しています。あわせてこれらの成果を基にしながら、研究所全体の情報システムの管理や広報活動を担っています。

●無形文化遺産部

無形文化遺産部は、無形文化財、無形民俗文化財及び文化財保存技術という日本の無形の文化財を中心に、無形文化遺産全般を対象として、その保存継承に役立つような基礎的な調査研究を実施しています。また無形文化遺産の重要な保護手法である音声・映像による記録については、その作成の実施とともに新たな手法開発についての研究を行っています。

●保存科学研究センター

保存科学研究センターは、文化財の保存のために文化財の材料・構造・技法を調査し、文化財への理解を深める情報を収集しています。また文化財の修復のために修復材料・技法の改良と、維持管理手法の開発を行っています。新しい調査法導入も視野に活動しています。これらの調査研究は文化財の所蔵者や保存修復現場の方々と密接に協力しながら進めています。

●文化遺産国際協力センター

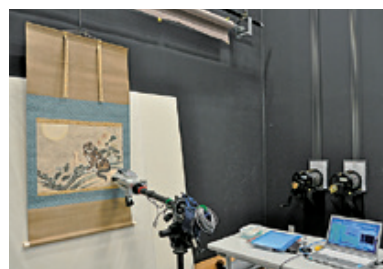
文化遺産国際協力センターは、アジア諸国をはじめとする世界各地での人材養成・技術移転を含む保存修復事業への協力、研究会の開催などによる国内外の機関との連携の推進、諸外国の文化遺産や保護制度に関する情報の収集・発信を行っています。また文化遺産国際協力コンソーシアム事務局を受託運営しています。



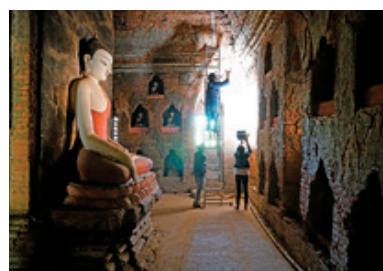
第28回日本資料専門家欧州会議でのリソース・プロバイダー・ワークショップ



琵琶製作者 石田克佳（五世石田不識）氏



可搬型蛍光X線分析装置を用いた絵画の彩色材料調査



バガン遺跡群における被災建造物の調査（ミャンマー）

■研修・助言・指導

東京文化財研究所では文化財の保護とその活用を目指し、例えば平成29年7月10日～21日に行われた「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」、平成29年8月28日～9月15日に行われた国際研修「紙の保存と修復」等の研修の他「無形文化遺産保護に対する助言・指導」「博物館・美術館等の環境調査と援助・助言」「文化財の修復及び整備に関する調査・助言」など、さまざまな研修・助言・指導を行っています。



国際研修「紙の保存と修復」



博物館・美術館等保存担当学芸員研修



第51回オープンレクチャーの案内

■大学院教育・公開講座

東京文化財研究所では次世代の人材育成や研究成果の社会的還元を目指し、大学院教育や公開講座を行っています。

大学院教育は、平成7年より東京藝術大学と連携し、システム保存学コースを開設しています。

また公開講座は、文化財情報資料部と無形文化遺産部がそれぞれ毎年開催しています。

■情報発信

東京文化財研究所では調査研究、国際協力など、様々な活動の成果を積極的に発信・公開する取り組みを進めています。また『年報』『概要』『東文研ニュース』などの広報誌を刊行するとともに、ウェブサイトの充実に努めています。



東京文化財研究所総合検索
(<http://www.tobunken.go.jp/archives/>)

■刊行物

東京文化財研究所では定期刊行物として『美術研究』『日本美術年鑑』『無形文化遺産研究報告』『保存科学』を刊行しています。そのほか、様々な研究成果を公表しています。



美術研究



日本美術年鑑



無形文化遺産研究報告



保存科学

沿革

昭和5年(1930) 帝国美術院に附属美術研究所が設置される
昭和22年(1947) 国立博物館附属美術研究所となる
昭和25年(1950) 文化財保護委員会の附属機関となる
昭和27年(1952) 美術研究所は東京文化財研究所となる
昭和29年(1954) 東京文化財研究所は東京国立文化財研究所となる
昭和43年(1968) 文化庁の附属機関となる
平成12年(2000) 新営庁舎(新館)竣工・移転
平成13年(2001) 独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所となる
平成19年(2007) 独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所となる

施設概要

		(m ²)
土地面積		4,181
建 物	建築面積	2,258
	延 面 積	10,516



奈良文化財研究所



奈良文化財研究所長
(独立行政法人国立文化財
機構理事長)

松村 恵司

●企画調整部

企画調整部は、企画調整室、文化財情報研究室、国際遺跡研究室、展示企画室、写真室で構成されています。各研究室は、地方公共団体文化財担当職員等を対象とした専門研修の企画、情報システムの整備と各種データベースの公開、遺跡等に関する国際的な共同研究や協力、平城宮跡資料館等での研究成果の公開普及、写真の作成と新技術の開発などの業務を担っています。

●文化遺産部

文化遺産部は、歴史研究室、建造物研究室、景観研究室、遺跡整備研究室を置き、それぞれが、「書跡・典籍・古文書・歴史資料」、「歴史的建造物・伝統的建造物群」、「文化的景観」、「遺跡整備・庭園」について、専門的かつ総合的な調査研究を行っています。各研究室における多様な調査研究の成果は、文化財の指定・登録・選定やその後の保存と活用に関する方策など、国の文化財保護行政にも大きく資するものとなっています。また、地方公共団体の文化財行政に対しても、協力・助言等で貢献しています。

●都城発掘調査部

都城発掘調査部は考古第一・考古第二・考古第三・史料・遺構の各研究室で構成され、平城地区と飛鳥・藤原地区に所在する古代宮殿や寺院、墳墓などで行う発掘調査に基づいて、学際的な調査研究を推進しています。その成果については説明会や報告書、展示などで公開するとともに、遺跡の保存・活用に資する研究にも取り組んでいます。

【平城地区】

奈良時代（710～784）の天皇の宮殿と中央官庁があった特別史跡平城宮跡の発掘調査とそれに基づく研究を主に担当しています。昭和34年（1959）から計画的な調査を継続し、これまでに130haに及ぶ平城宮跡の3分の1以上の発掘を進めてきました。平城宮跡や寺院の遺跡等で発掘された建物等の遺構、並びに木簡や木製品・土器・瓦等の遺物を基に、文献とも照合した実証的な奈良時代研究は、高く評価されています。また、平城宮跡を国営公園として整備している国土交通省に対し、整備の基礎資料となる平城宮跡の研究成果を提供しています。

【飛鳥・藤原地区】

我が国の古代国家成立期である7世紀から8世紀初頭にかけて、政治・経済・文化の中心地であった飛鳥・藤原地域の発掘調査とそれに基づく研究を担当しています。飛鳥地域には、宮殿や豪族の居館、飛鳥寺等の寺院のほか、銭貨や硝子などの工芸品を製作した総合工房や漏刻（水時計）台、墳墓などの遺跡があり、その北方には、我が国最初の本格的都城である藤原京が方5km以上の範囲に広がっています。飛鳥・藤原地域の遺跡の発掘調査に基づく実証的・学際的な研究は、飛鳥時代の歴史の解明に大きく貢献しています。

奈良文化財研究所は、貴重な文化財を実物に即して総合的に研究する組織で、平城宮跡や藤原宮跡の発掘調査をはじめ、建造物、古文書などの個々の文化財の調査研究、そして飛鳥保存のための調査研究と展示普及などを行っています。これらは、国内外の文化財研究、学術交流、国際支援にも大きく寄与し、中国や韓国の文化財研究所との恒常的な共同研究としても結実しています。また、新たな発掘技術と研究方法の開発、自治体専門職員への指導と研修なども行っています。遺跡の保護のために研究所が開発した保存、修復、整備の技術は、全国各地はもちろん世界の遺跡でも活かされています。これらの調査研究は、当研究所の特徴である異なった分野の学際的な共同研究によって支えられています。当研究所は、それらを最大限に活かし、文化財保存のための研究を一層充実してまいれる所存です。



平城宮跡資料館地下の正倉院展でのギャラリートーク



唐招提寺の古文書調査



平城宮東院地区の大型井戸と周辺の遺構



藤原宮大極殿院東北隅部の調査

●埋蔵文化財センター

埋蔵文化財センターは4つの研究室から成り、文化財の調査、研究、保存に関する実践的な研究と研究成果の研修等による普及に取り組んでいます。保存修復科学研究室は、考古資料の材質・構造の調査分析と保存修復、遺構の露出展示等に関する基礎研究から実践研究を行っています。環境考古学研究室は、動植物遺存体の調査研究を通して古環境の復元や過去の動植物利用等に関する研究を行っています。年代学研究室は、年輪年代学の手法を用いて木質文化財の年代、産地、製作技法等に関する応用研究を進めています。遺跡・調査技術研究室は、文化財、考古学の研究及び手法の開発と活用を目的として、現在は考古資料を中心とした探査・計測技術や災害考古学の調査・研究に取り組んでいます。

●飛鳥資料館

飛鳥資料館は、飛鳥の歴史と文化を紹介する展示施設として、閣議決定に基づいて昭和50年（1975）に開館しました。常設展示として宮都・石造物・古墳・寺院などのテーマ展示とともに、保存処理を行った山田寺東回廊の出土部材を復元展示しています。春と秋には特別展、夏と冬には企画展を開催し、飛鳥の歴史や文化財に焦点を当てた展示や、奈良文化財研究所の多様な研究成果をわかりやすく伝える展示、写真コンテストの作品展などを開催しています。そのほか講演会や参加型イベントなどの企画も行っています。

●国際学術交流

奈良文化財研究所で現在実施している国際交流・協力事業は、学術共同研究、研究員交流、技術研修、保存修復などであり、ユネスコ・アジア太平洋文化センター（ACCU）など他機関が行う国際協力事業にも協力しています。

独自事業としては、①中国社会科学院との北魏洛陽城の都城遺跡の共同調査、②中国河南省文物考古研究院との鞏義市黄冶・白河窯跡の共同調査、③中国遼寧省文物考古研究所との三燕文化出土遺物の共同調査、④韓国国立文化財研究所との都城の比較研究ならび発掘調査人材交流、⑤カンボジア・アンコール・シェムリアップ地域文化財保護管理機構（APSARA）と連携したアンコール遺跡群・西トップ遺跡の研究調査・保存事業と人材育成を行っています。また、文化庁から受託した拠点交流事業として、ミャンマー宗教・文化省考古・国立博物館局と共同で遺跡の発掘調査法・出土遺物の調査研究法に関する技術移転・人材育成事業を行っています。

●刊行物

奈良文化財研究所では定期刊行物として『奈良文化財研究所紀要』『奈良文化財研究所概要』『奈文研ニュース』『埋蔵文化財ニュース』を刊行しています。そのほか、様々な研究成果を公表しています。



ドローンを用いた井寺古墳の三次元写真計測



飛鳥資料館



アンコール西トップ遺跡保存事業

沿革

昭和27年(1952)	文化財保護委員会の附属機関として奈良文化財研究所（庶務室・美術工芸研究室・建造物研究室・歴史研究室）を奈良市春日野町50に設置
昭和29年(1954)	奈良国立文化財研究所と改称
昭和35年(1960)	奈良市佐紀東町の平城宮跡に発掘調査事務所を設置
昭和38年(1963)	平城宮跡発掘調査部を設置
昭和43年(1968)	文化庁が発足 その附属機関となる
昭和45年(1970)	平城宮跡資料館を開館
昭和48年(1973)	会計課・飛鳥藤原宮跡発掘調査部・飛鳥資料館（準備室）を設置
昭和49年(1974)	庶務部（庶務課・会計課）と埋蔵文化財センターを設置
昭和50年(1975)	奈良県高市郡明日香村奥山に飛鳥資料館を開館
昭和55年(1980)	美術工芸研究室を奈良国立博物館の仏教美術資料研究センターに移管
昭和55年(1980)	庁舎を奈良市二条町に移転 平城宮跡発掘調査部・埋蔵文化財センターを庁舎に移転統合
昭和63年(1988)	飛鳥藤原宮跡発掘調査部庁舎を橿原市木之本町94-1に新営
平成13年(2001)	独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所となる
平成19年(2007)	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所となる
平成25年(2013)	本庁舎地区再開発計画に伴い、奈良市佐紀町247-1の仮設庁舎に移転
平成30年(2018)	新庁舎竣工に伴い、仮設庁舎から移転予定

施設概要

(m ²)			
土 地		建 物	
本庁舎地区	8,879	建築面積	2,812
		延 面 積	11,387
平城宮跡地区	(文化庁所屬の国有地を無償使用)	建築面積	13,328
		延 面 積	21,395
藤原地区	20,515	建築面積	6,016
		延 面 積	9,477
飛鳥地区	17,093	建築面積	2,657
		延 面 積	4,404

アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)

International Research Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region



アジア太平洋無形文化
遺産研究センター所長
岩本 渉

アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）は、平成21年10月の国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）総会にて「ユネスコが賛助するアジア太平洋地域における無形文化遺産のための国際協力センターの設置承認」を受け、翌年8月に締結された日本政府とユネスコ間の協定に基づき、平成23年堺市に開所したユネスコカテゴリー2センター（ユネスコと協力してプログラムを実行する機関）です。

IRCIでは主にユネスコの「無形文化遺産の保護に関する条約」の方針に沿って、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に向けた調査研究に従事する研究者や研究機関を支援し、当該分野における研究の充実を使命とする国際拠点として活動しています。昨今、世界各地で様々な理由により危機に瀕している無形文化遺産が少なくなく、その対策は喫緊の課題となっています。当センターは、日本及びアジア太平洋地域の大学、研究機関等と協力しつつ、無形文化遺産の保護に関する実践及び方法について調査研究を推進しています。

■平成30年度の活動計画

IRCIでは、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための調査研究拠点として、次のような活動を推進するとともに、国際的動向の情報収集や我が国の知見を活用した無形文化遺産保護の充実につとめています。

1. 無形文化遺産保護に向けた研究の活性化
2. 危機に瀕する無形文化遺産の保護と、災害等における無形文化遺産の役割に関する調査研究
3. 堺市との協力による無形文化遺産に関する普及啓発活動

上記に基づき、平成30年度は次のような計画を実施する予定です。

●無形文化遺産保護に向けた研究の活性化

1. 文献調査

平成30年度は3カ国を対象として情報収集を行います。平成30年3月時点までの調査で30カ国を網羅しており、現地の研究機関や研究者の協力を得ることで、現地語で書かれた文献やレポート等についての情報収集を可能にしています。また、平成30年度は事業の最終年度として、成果をまとめた報告書を編集し出版します。

2. 研究データベース「IRCI RESEARCH DATABASE」

収集した文献・研究者・研究機関についての情報を整理し、平成26年9月より、IRCIウェブサイトにて検索可能な研究データベースを公開しました。平成30年3月時点で、約2,300件のデータを収録しています（<https://www.irci.jp/ichdb/>）。平成30年度は、文献調査で得た情報を追加し、ユーザーの意見や要望を把握することを目的としたニーズ・アセスメントを実施する予定です。

3. 無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究

—教育を題材として—

平成30～31年度の事業として、持続可能な開発目標のうちの目標4「教育」に焦点をあて、当該分野に対する無形文化遺産の貢献を促進する事業を実施します。IRCIは、国内外の複数の研究機関が調査研究を進めるための事業調整を行い、研究計画・進捗確認・評価等のあらゆる段階で適切な助言を行います。また、平成30年度は、フィリピンの国家文化芸術委員会、ベトナムの民族学博物館及び教育科学研究所と連携し、無形文化遺産を教育に導入するためのガイドラインの作成などを予定しています。



フィリピン国家文化芸術委員会での議論の様子
(平成30年2月 フィリピン、マニラ)



ベトナム民族学博物館での議論の様子
(平成30年2月 ベトナム、ハノイ)

●危機に瀕する無形文化遺産保護と、災害等における無形文化遺産の役割に関する調査研究

1. アジア太平洋の無形文化遺産と自然災害に関する地域ワークショップ

IRCIでは平成28～29年度にかけて、「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する予備調査」事業を実施しました。過去2年間の事業において、フィールド調査や国際会合を通して基礎的情報収集を行ってきた活動成果を踏まえ、平成30年度は、東京文化財研究所（無形文化遺産部）と連携して地域ワークショップを開催します。

このワークショップでは、自然災害状況下での無形文化遺産保護に関する様々な課題や、災害リスクマネジメントに果たす無形文化遺産の役割について議論し、実践的な提言を取りまとめる予定です。事業報告書の出版も予定しています。

2. アジアのポストコンフリクト国等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究

平成29～32年度を実施期間とする本事業では、紛争後の状況における無形文化遺産の実態について調査を行い、無形文化遺産の継承を脅かす要因を特定することを目的としています。事例調査を実施することにより、紛争後のコミュニティにおける、有効な無形文化遺産保護の手法やマッピングの方法論について議論し、特にコミュニティ主体のアプローチについての研究が促進されることを目指します。平成30年度は、スリランカ、東ティモール、アフガニスタンを対象に、現存する無形文化遺産についての情報収集と調査を実施します。また、各調査対象国及び、無形文化遺産専門家を招聘してワークショップを実施し、調査の成果や課題を議論し、有効な保護の手法やコミュニティの無形文化遺産を評価するための有効な手段についても検討することを計画しています。



ワークショップで地域の無形文化遺産について議論する住民たち（平成29年7月 バヌアツ、ガウア島）

●堺市との協力による無形文化遺産に関する普及啓発活動

IRCIは、堺市と連携しながら、日本国内での無形文化遺産に関する普及啓発活動や情報発信を行っています。例えば、堺市及び国立文化財機構が共催で、平成27年度から毎年継続して開催している「東京シンポジウム—文化遺産を考える—」の中では、IRCIの活動を紹介するパネル展示や報告書等の出版物配布を行っています。同シンポジウムは平成30年度も7月21日に、東京国立博物館で開催を予定しています。



「東京シンポジウム—文化遺産を考える—」でのパネル展示（平成29年6月 東京国立博物館）

●情報発信

IRCIは、平成30年3月に日・英両言語によるウェブサイト（<https://www.irci.jp>）をリニューアルしました。IRCIの取り組みや無形文化遺産等について、広くわかりやすく伝え、活動成果をできるだけ多くの皆さまに公開することを目指したデザインや構成にし、スマートフォンやタブレットにも対応したサイトに生まれ変わりました。さらに、IRCIでは、その活動成果を広く公開するために、平成29年度に以下の刊行物を発行いたしました。

1. IRCI概要2017（日本語版・英語版）
2. 「無形文化遺産をグローバルに見る—地域社会と研究者、国家、ユネスコの相互作用—」プロシーディングス（英語版）
3. 「国際シンポジウム—無形文化遺産をめぐる交渉—」報告書（英語版）
4. 「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する予備調査」2016-2017年度事業報告書



IRCI概要2017



平成29年7月7日～9日に実施した、国際シンポジウム「無形文化遺産をグローバルに見る—地域社会と研究者、国家、ユネスコの相互作用—」のプロシーディングス（英語版）



平成29年11月29日～12月1日に実施した、国際シンポジウム「無形文化遺産をめぐる交渉」の報告書（英語版）

沿革

平成21年(2009)10月 センター設立がユネスコ総会で承認
平成22年(2010)8月 日本政府とユネスコ間でのセンター設立に関する協定締結
平成23年(2011)3月 堺市と国立文化財機構間でのセンター開設に関する協定締結
平成23年(2011)4月 アジア太平洋無形文化遺産研究センター設置準備室設置
平成23年(2011)10月 アジア太平洋無形文化遺産研究センター開所

施設概要

		(m ²)
建 物	建築面積	244.67
	延面積	244.67
総室数	4 室	

※建物は大阪府堺市から提供されています。

運営委員会（平成30年4月1日現在）

国立文化財機構の運営について各界から御意見を伺うべく、外部有識者による運営委員会を設置しています。

運営委員会は、機構の管理運営に関する重要事項について審議を行うとともに理事長に助言することを任務としています。

委員は20名以内で、任期2年（再任可）。

あん どう ひろ やす 安 藤 裕 康	独立行政法人国際交流基金理事長	た なべ いく お 田 辺 征 夫	公益財団法人大阪府文化財センター理事長
いま むら みね お 今 村 峯 雄	国立歴史民俗博物館名誉教授・総合研究大学院大学名誉教授	だん ふ み 檀 ふ み	女優
うえ はら ま ひと 上 原 真 人	公益財団法人辰馬考古資料館館長	にしたかつじ のぶ よし 西高辻 信 良	太宰府天満宮宮司
かみ い もん しょう 神 居 文 彰	平等院住職	ふじ い しょう じ 藤 井 譲 治	京都大学名誉教授
から いげ こう じ 唐 池 恒 二	九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長	ふる せ なつ こ 古 瀬 奈津子	お茶の水女子大学基幹研究院教授
きの した なお ゆき 木 下 直 之	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授	やなぎ はら まさ き 柳 原 正 樹	独立行政法人国立美術館理事長
さ とう てい いち 佐 藤 禎 一	ユネスコ代表部元大使	やま もと しんいちろう 山 本 信一郎	宮内庁長官
し みず ま ずみ 清 水 真 澄	三井記念美術館館長		（敬称略）

外部評価委員会（平成30年4月1日現在）

国立文化財機構では、機構の業務、調査・研究の実績について、自己点検評価を行うとともに、このことを検証し、適正な評価を行うために、外部有識者による外部評価委員会を設置しています。

委員は任期2年（再任可）。

いし かわ ひ でし 石 川 日出志	明治大学文学部教授	さか もと ひろ こ 坂 本 弘 子	朝日新聞社執行役員名古屋本社代表
お がさわら なおし 小笠原 直	監査法人アヴァンティア法人代表 代表社員・公認会計士	さかき ばら さとる 榊 原 悟	岡崎市美術博物館館長
おか だ やす よし 岡 田 保 良	国土舘大学イラク古代文化研究所教授	てら きき やす ひろ 寺 崎 保 広	奈良大学文学部教授
かわ い まさ とも 河 合 正 朝	千葉市美術館館長	てら だ よし たか 寺 田 吉 孝	国立民族学博物館教授
こ じま かおる 児 島 薫	実践女子大学文学部美学美術史学科教授	な こ や あきら 名児耶 明	公益財団法人五島美術館副館長
こ まつ たい しゅう 小 松 大 秀	秋田市立千秋美術館館長	はま だ ひろ あき 浜 田 弘 明	桜美林大学教授
さい とう つとむ 齋 藤 努	国立歴史民俗博物館研究部教授	やなぎ ばやし おさむ 柳 林 修	元読売新聞編集委員
さかえ はら と わ お 栄 原 永遠男	大阪歴史博物館館長		（敬称略）

予算

平成30年度予算

収入予算額

(単位：千円)

	平成30年度	平成29年度
自己収入	1,677,155	1,575,706
運営費交付金	8,808,027	8,325,430
受託収入	617,802	587,444
施設整備費補助金	405,044	1,779,609
その他寄附金等	542,212	439,574
合計	12,050,240	12,707,763

支出予算額

(単位：千円)

	平成30年度	平成29年度
運営事業費	10,485,182	9,901,136
人件費	3,499,389	3,448,128
物件費	6,985,793	6,453,008
受託事業費	617,802	587,444
施設整備費	405,044	1,779,609
その他寄附金等	542,212	439,574
合計	12,050,240	12,707,763

外部資金受入

施 設	科学研究費				受託研究費（29年度）		研究助成金（29年度）	
	①科学研究費補助金 （30年度）		②学術研究助成基金助成金 （30年度）					
	件数	金額（千円）	件数 （括弧は左の内数）	金額（千円）	件数	金額（千円）	件数	金額（千円）
本 部 事 務 局	0	0	0（0）	0	1	72,343	1	150,000
東 京 国 立 博 物 館	9	42,510	9（1）	10,179	2	42,595	4	41,118
京 都 国 立 博 物 館	1	4,810	5（0）	4,550	1	956	1	350
奈 良 国 立 博 物 館	1	10,400	4（0）	3,900	0	0	3	9,000
九 州 国 立 博 物 館	3	27,430	4（0）	4,810	1	12,114	1	600
東京文化財研究所	9	22,560	19（2）	24,114	11	138,241	1	3,000
奈良文化財研究所	15	73,710	39（0）	49,010	32	261,006	12	9,347
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	0	0	1（0）	1,430	1	51,683	0	0
計	38	181,420	81（3）	97,993	49	578,938	23	213,415

※①の金額は、当初の交付決定額の30年度分の金額です。

※②の金額は、複数年度の事業の場合、当初の交付決定時に各年度分の交付額が示されます。

※同一の研究課題で①と②の両方が交付されるもの（一部基金分）の件数はそれぞれに含み、②の件数の括弧書きは共通するものの内数です。

また金額には間接経費を含みます。

※受託研究費は機構内の委託を除きます。

○寄附・寄贈

【寄 附】

独立行政法人は国から運営費交付金や施設整備費補助金を得て事業運営していますが、厳しい財政状況や効率化を図る観点から、広く外部資金を導入し経営に役立てることが求められています。国立文化財機構も例外ではなく、入場料以外にも収入の道を確保しなければなりません。このような趣旨から、個人・団体を問わず広く皆様に御支援をお願いしています。

国立文化財機構は、税法上の優遇措置の対象となる「特定公益増進法人」となっており、機構へ寄附を行う個人・団体は、当該寄附金について一般の法人に対する寄附金とは異なる所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

▶所得税

個人が特定公益増進法人等に寄附を行った場合には、一定額を所得税の課税所得から控除することができる「寄附金控除」又は「税額控除」の制度が設けられており、いずれか有利な方の選択が可能です。

この「寄附金控除」については、平成22年度税制改正において、適用下限額が5千円から2千円に引き下げられました。これにより、特定公益増進法人等に対する寄附金の額が年間合計で2千円を超えれば減税の対象となりました。

⇒ 「寄附金（総所得金額等の40%を限度）－2千円」を所得から控除することができます。

※なお、個人住民税についても、お住まいの自治体の条例により当機構が寄附金控除の対象とされている場合、寄附金控除の対象となります。

▶法人税

法人が特定公益増進法人等に寄附を行った場合には、支出した特定公益増進法人等への寄附金額を、一般の寄附金とは別枠で損金に算入することができます。

また、平成23年度税制改正では、更に寄附金の優遇措置の拡充が図られ、寄附金の損金算入限度額が拡大されました。

⇒ 特別損金算入限度額＝「(資本金等の金額×0.375% (改正前0.25%) + 所得金額の6.25% (改正前5%)) × 1/2」(事業年度一年未満の法人の場合は、一定の月数按分が必要となります。また、資本金等のない法人(NPO法人など)については、算式が異なります。)

【寄 贈】

国立文化財機構では、文化財を保存・管理、調査研究、展示などでの公開に活用しています。これらの事業を行うため文化財を計画的に購入するほか、文化財を所有される方からの御寄贈もいただいています。

御寄附・御寄贈に関する相談や手続きについては、以下にお問い合わせください。

施設名	寄附	寄贈	お問合せ先
東京国立博物館	総務部経理課	学芸研究部列品管理課	03-3822-1111 (代表)
京都国立博物館	総務課財務係	学芸部列品管理室	075-541-1151 (代表)
奈良国立博物館	総務課財務係	学芸部企画室	0742-22-7772(寄附・直通) 0742-22-7774(寄贈・直通)
九州国立博物館	総務課財務係	文化財課資料登録室	092-918-2807 (代表)
東京文化財研究所	研究支援推進部管理課企画渉外係		03-3823-2249 (直通)
奈良文化財研究所	研究支援推進部総務課		0742-30-3916 (直通)
アジア太平洋無形文化遺産 研究センター	総務担当		072-275-8050 (直通)
(施設を特定しない場合)	本部事務局財務課		03-3822-2439 (直通)

○会員制度

広く御支援を頂き運営基盤を確保するため、東京国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館では賛助会員制度を設けているほか、京都国立博物館では一般社団法人清風会による支援を頂いています。

また、来館者により博物館に親しんでいただくために、東京・京都・奈良・九州の4国立博物館では様々な会員制度を設けています。平成29年には、国立文化財機構発足10周年を記念して、4館共通の国立博物館メンバーズパス制度を設けました。皆様の御利用をお待ちしています。

		東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
名称		国立博物館メンバーズパス			
年会費	一般	2,000円（税込）			
	学生	1,000円（税込）			
特典	平常展	東京：総合文化展、京都：名品ギャラリー、奈良：名品展、九州：文化交流展 ・会員証の御提示により、何回でも無料で御観覧いただけます（御本人様のみ）。			
	特別展	4館で開催する特別展を、割引料金で何回でも御観覧いただけます。 ・各館券売所にて、会員証の御提示により、団体料金で観覧券を御購入いただけます（御本人様分のみ）。 ・学生の方は大学生（団体料金）の観覧券を御購入いただけます（御本人様分のみ）。			
お申込方法		各館の窓口ほか、郵便振替等によってもお申し込みの受付を行っております。			
お問合せ先		総務課 会員制度担当 03-3822-1111（代表）	総務課 事業推進係 075-541-1151（代表）	総務課 企画推進係 0742-22-4450（直通）	総務課 092-918-2807（代表）



【キャンパスメンバーズ】

各国立博物館では、大学や専修学校等を対象としたキャンパスメンバーズ制度を設けています。本制度は大学等と博物館との連携を深め、学生の皆さんにより博物館に親しんでいただく機会を提供することを目的としています。

学生数に応じた年会費をお支払いいただくことにより、平常展（総合文化展、名品ギャラリー、名品展、文化交流展）を無料で御観覧いただけるなど各博物館で様々な特典を御用意しています。

○ユニークベニュー

各国立博物館では、施設をMICE*事業などに活用するユニークベニューとしての施設利用を推進しています。企業のパーティーや新製品発表会など様々な用途で、館内の施設を御利用いただいています。

※MICE= Meeting、Incentive Travel、Convention、Exhibition/Eventの頭文字をとった略語。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

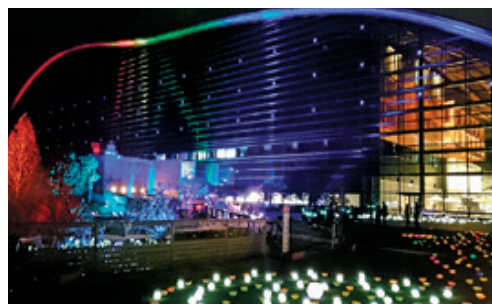
○多様な観覧機会の確保

各国立博物館では、観覧機会の拡充を目的として、金・土曜日の開館時間を延長するとともに、様々な夜間イベントを実施しています。

また、外国人観光客にも展示を理解していただけるよう、平常展及び特別展の展示解説・キャプション・音声ガイド等について、英語・中国語・韓国語での対応を推進しています。



トーハク BEER NIGHT!（東京国立博物館）



夜の九博★ファンタジア（九州国立博物館）



JR 上野駅公園口、又は鶯谷駅下車 徒歩 10 分

東京メトロ 銀座線・日比谷線上野駅、

千代田線根津駅下車 徒歩 15 分

京成電鉄 京成上野駅下車 徒歩 15 分



独立行政法人
国立文化財機構

〒110-8712 東京都台東区上野公園 13 番 9 号

電話：03-3822-1196

URL：http://www.nich.go.jp/